

室蘭港長期構想検討委員会 第1回委員・幹事合同委員会

[会議録概要]

日 時：2019年11月26日(火)午後1時30分開会
場 所：蓬 嶮 殿 黎 明 の 間 A

室蘭港長期構想検討委員会第1回委員・幹事合同委員会 意見概要

分類	内容
全体	<ul style="list-style-type: none"> ・国際的な舞台に打って出ていくには、自前だけでは無理があるため、道央圏の幾つかの港と連携し、地理的特性も考えながら一定の地域の中で国際的な役割を果たしていくという視点も必要。 ・空間利用を整序化して、効率的な展開を進めて行くということが必要。 ・室蘭港は地域にとっての拠点であるべき港であり、北海道にとっての拠点でもあり物流、産業、観光のあらゆるものの役割も果たして行くべき。 ・港湾管理者としても、都市としっかり連携しながら、港の機能をどのように使ったらよいかマネジメントを行うべき。 ・各種インフラ整備について社会資本整備で対応出来ることもあると思う。ポルトネックとなっているものがあれば整理が必要。
物流・産業	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用を増やし、人口を増やし、港の活性化のため企業の誘致を行うべき。 ・漁業に関して今は衛生管理が厳しくなっており、全道的に普及している屋根付き岸壁について検討すべき。 ・トラックドライバーの不足、車両の不足により、荷物を運べない状況であり、既存の鉄道貨物は輸送手段として維持すべき。 ・青函共用走行問題により荷が溢れてきた場合、海上で積極的に受け取り、崎守の引き込み線売り込んで行くことが必要。 ・土地利用を整理して集中的または効率的に整備を進めていくことが非常に大事。 ・船舶の大型化に伴いセカンドポートになるということが頻繁に続くようであれば、内港に大きい岸壁が必要ではないか。 ・祝津からマリーナの辺りに土地が空いており、今後どのように活用していくのか。 ・新しい製造業の中で、航空・宇宙産業といったものが地場の企業からできつつあり、また、企業側の産業集積の動きなどについて、もう少し色濃く出すべき。
人流・賑わい	<ul style="list-style-type: none"> ・埠頭に何も施設がなく客船が入港してもお客さんは7～8割が市外に流れてしまうため、市内に滞在して貰えるような各種整備を行うべき。 ・港を入り口として活用するのは良いと思うが、室蘭にお金を落として貰う仕組みづくりも合わせて考えていく必要がある。 ・クルーズ業界では新しい船が毎年出来ており、新しい船の人たちが興味を持って貰えるような港づくりが大事。港に人が来て、賑わいが生まれる、そのような施設が必要ではないか。 ・Sea 級グルメの全国大会など食に繋がるイベントや、海の日コンサートのような港に音楽を轟かせ人が集まり賑わうようなイベントを港で行うべき。 ・祝津埠頭に客船が着くのは良いが、小さなクルーズ船は中央埠頭に着くということで、拠点としてのポテンシャルは引き続きあるため、その辺も少し考えるべき。 ・噴火湾の水上ネットワークとか、今あるポテンシャルをもっと生かして、水上からのアクセスにも期待した展開も考えるべき。 ・クルーズ船の認知度が上がり回数が増えている中で、他港と比べ室蘭港の寄港回数が少ない。また、政府の「上質な寄港地観光プログラム」に室蘭が登録されていない

<p>人流・賑わい</p>	<p>いのが残念。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クルーズ船 1 隻よりスーパーヨット 1 隻来る方が地元に着くお金が大きいという話もあり、受入について今後どのように考えているか。 ・インフラツーリズムについてクルーズ船の受入とうまく組み合わせることはできないか相談しながら進めたい。 ・クルーズ船の誘致と合わせて、手荷物の検査場、ターミナルビル関係の建設も視野に入れて考える必要がある。 ・観光について有望なものとして、むかわ竜というものがあり、東京の博物館で夏の間展示したところ、67 万人が訪れるほどの人気があり、クルーズ船の観光としても有望な資源になるので検討すべき。
<p>エネルギー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・洋上風力発電を押し進めて行っていくべき。 ・洋上風力発電機の生産にノウハウはあるが、単独で対応出来ることではないため地域と相談しながら進めたい。 ・洋上風力発電について日本海ばかり注目されているが、太平洋側で構想している企業はないのか、また、室蘭で基地港や資機材を支援する港として位置づける等を考えていないのか。 ・地球温暖化対策、脱 CO2 というのは避けて通れないところであり、再生可能エネルギーや水素等を社として検討している。
<p>環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・祝津埠頭へ客船が着くときは、既存の石炭は無くすか、きれいに見せる工夫を考える必要がある。 ・環境産業のリサイクル少し先の話かもしれないが、今風の産業の芽を室蘭から発信できる可能性がある。
<p>安全・安心</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な施設が老朽化してきており、岸壁、倉庫を含めて施設の修繕や新設にも目を向けるべき。 ・台風が来る夏場の荒天の中、如何に船に来て頂くか、効率的に運ぶかということが長期的な課題。 ・去年の地震を踏まえて災害時の室蘭港の役割を明確にした上で、どういった強化が必要かといったところを詰めていく必要がある。